

SPECIAL INTERVIEW

スペシャル インタビュー

変えるものと、変えないもの。
どちらも大切にしながら
苦しいときにも成長を
あきらめない自分でいたい。

MIU HIRANO

木下アビエル神奈川

平野 美宇 さん

PROFILE

2000年生まれ。3歳で卓球を始め、2017年アジア卓球選手権女子シングルスで優勝。2016年リオ五輪でリザーブ選手となった経験に、オリンピック東京2020大会、パリ2024大会で女子団体銀メダルを獲得。2022年より木下アビエル神奈川所属。Tリーグには2018-2019シーズンより参戦し、8シーズン中7シーズンの優勝を経験。2025-2026シーズンではシングルス勝率75%を記録。常にリーグ上位の成績で活躍している。



2018年秋に発足したプロ卓球リーグ「Tリーグ」。当社がオフィシャルスポンサーを務める同リーグの中心選手として活躍するのが平野美宇選手です。華々しい実績の裏で、人知れぬ葛藤を乗り越えてきた彼女が見つめる未来の景色とは——。アロンアルファを通じた当社との意外な縁についても伺うことができました。

自分は“ラッキーパーソン”だと思います。選手として大切な時期にTリーグが開幕して、トップレベルの選手たちと切磋琢磨してこられたこともそうですし、そのTリーグで何度も優勝を経験できているので。

Tリーグ選手としては、2018年からオフィシャルパートナーを務めてくださっている東亜合成さんにとても感謝していますし、個人的に親近感やご縁も感じています。



※ 本インタビューは2026年3月に実施したものです。

練習中、ラケットを卓球台にぶつけて木の剥がれができたときなど、それを直すのにアロンアルファを使わせてもらっているんです。私は1つのラケットを3年、4年と使い続けるので、アロンアルファもプレーを支えてくれる味方のように思っています。

Tリーグ開幕は選手生活の大きなターニングポイントになりましたが、リオ五輪でのリザーブ経験も忘れられません。他の選手が試合をするのを、私は観客席で観ているしかできない——その状況がとても悔しくて。代表になるためには、練習の量も、質も、プレーに対する考え方も、あらゆることを「変えないといけない」と痛感しました。練習量で言えば、朝9時から夜9時まで没頭するようになるなど、自分でも“私は変わった”という実感がありました。

変えないといけないことは、これからの選手生活でもたくさんあると思います。プレースタイルや目標もそうですし、時代とともに変わる卓球の球やラケットに合わせて、自分の技術を進化させ続けることも必要です。

一方で、変わらず持ち続けていたいものもあって、その1つが「逃げない気持ち」です。試合に勝ったときは楽しいけれど、負ければ辛いし、卓球を好きになれない瞬間もたくさんあります。逃げてしまえば楽ですが、それでは自分の夢は叶わず、卓球以外の全てで中途半端に終わってしまうように思います。これからも、自分で決めたことには背を向けず、粘り強く取り組んでいこうと思います。いつも身近に愛用しているアロンアルファのように、タフで粘り強い卓球選手でいたいですね。